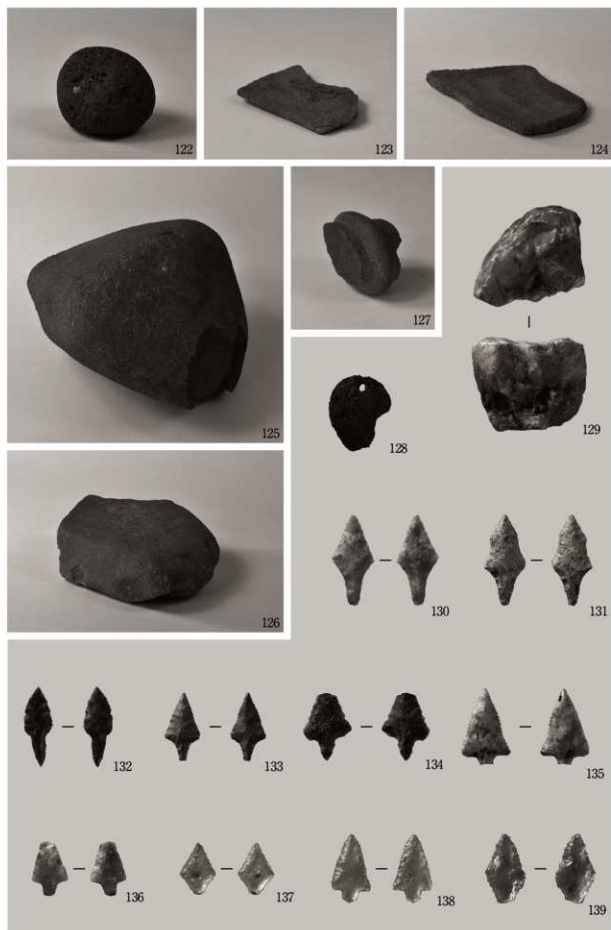
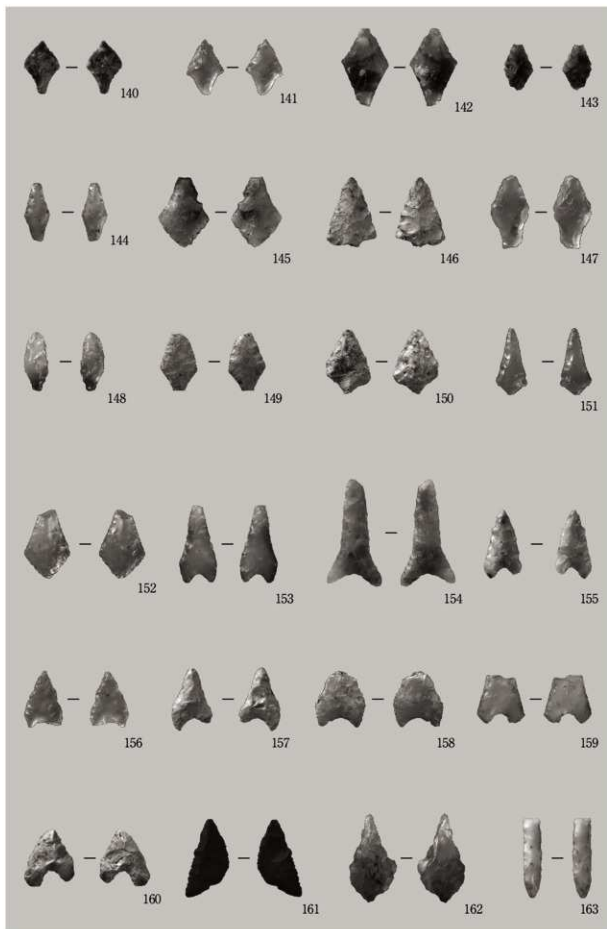


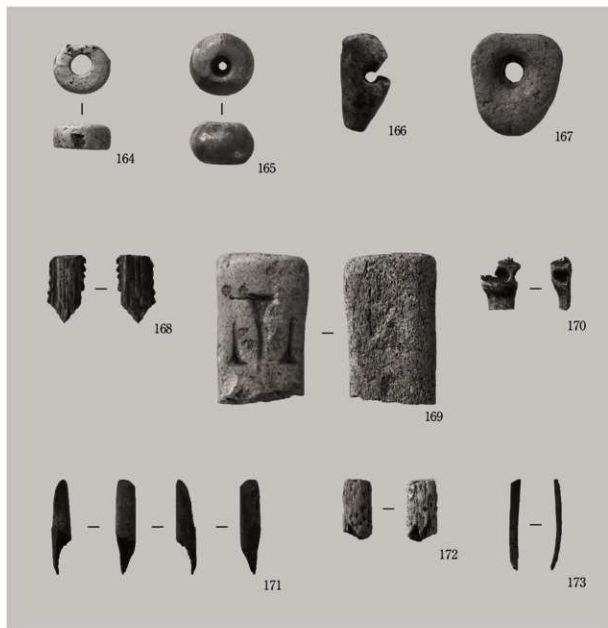


SI 26出土遺物 (8)



SI 26出土遺物 (9)





SI 26出土遺物 (11)



SK179出土遺物



SK176出土遺物



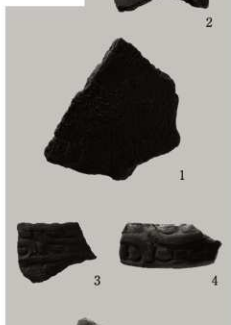
SK180出土遺物



SB4出土遺物



SK182出土遺物

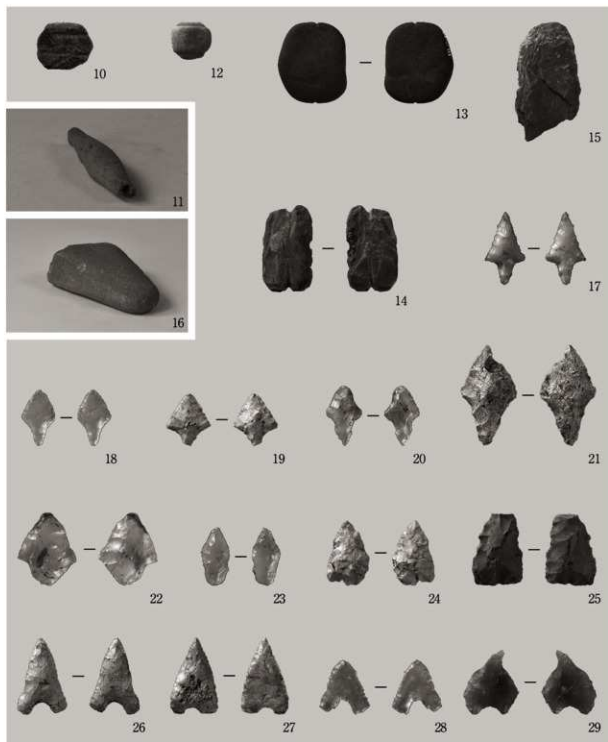


SK185出土遺物



第27トレンチ遺構外出土遺物 (1)

Figure 6: A dark, irregularly shaped fragment of earthenware with a textured surface.



第27トレンチ遺構外出土遺物（2）



表面採集遺物



SK 1 出土遺物



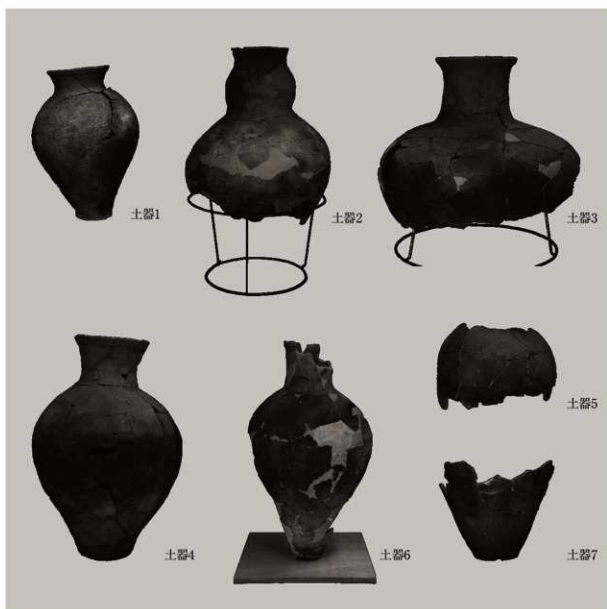
SK 2 出土遺物 (1)



SK 2出土遺物 (2)



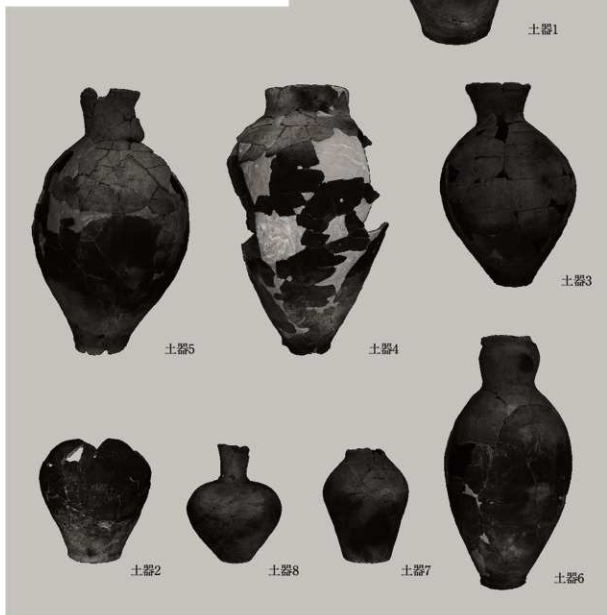
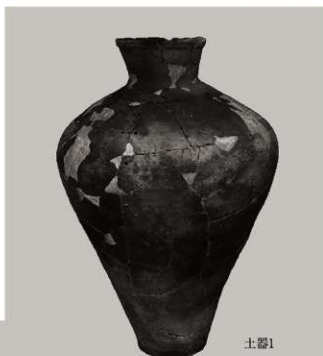
SK 2 出土遺物 (3)



SK 3 出土遺物 (1)



SK 3 出土遺物 (2)



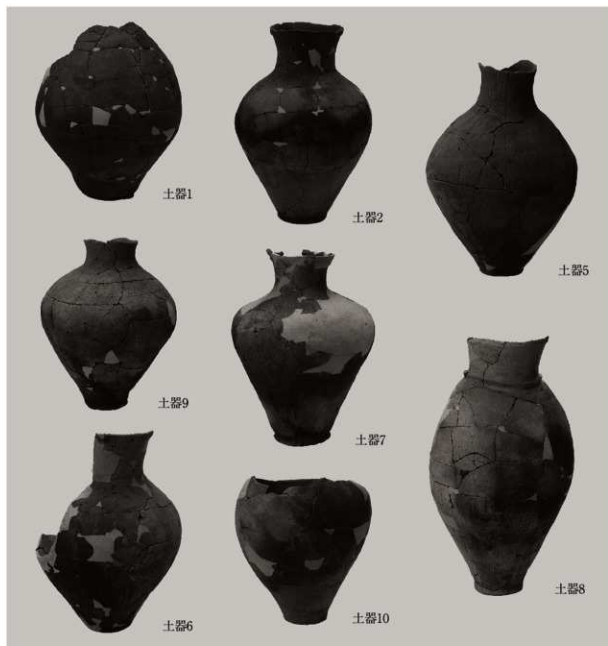
SK 4 出土遺物



SK5 出土遺物



SK6 出土遺物



SK26出土遺物



SX 1 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いずみさかしたいせき こ							
書名	泉坂下遺跡Ⅴ							
副書名	一人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群—保存整備事業に伴う第4次確認調査報告及び総括報告							
巻次								
シリーズ名	茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第26集							
編著者名	後藤 俊一、中林 香澄、萩野谷 悟、西口 和彦、鈴木 素行、バリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	常陸大宮市教育委員会							
所在地	〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6							
発行機関	常陸大宮市教育委員会							
所在地	〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6							
発行年月日	平成28（西暦2016）年12月1日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				m ²	
泉坂下遺跡	常陸大宮市泉字坂下918番地 外21筆	08225	大120	36°32'1"	140°26'5"	20150901 ～ 20151029	7,697	保存整備事業に伴う第4次確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
泉坂下遺跡 （第1部 第4次確認調査）	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡1軒 土坑2基	縄文土器（深鉢、浅鉢、台付鉢、壺、注口土器、ミニチュア土器）、土製品（土偶、土製有孔円盤、土器片円盤）、石器・石製品（石槌、石剣、石刀、石鏃、石錐、磨石、敲石、磨製石斧、砥石、独鈷石、石核、白土丸玉）、骨角製品（髪針）			縄文時代竪穴住居跡の時期は晩期前葉。覆土中からは、埋没過程で廃棄されたと推定される、晩期中葉を中心とする多量の遺物が出土。周囲に当該時期の集落が展開することが確実である。遺物は呪術的なものが多い。弥生時代の溝跡については、遺物から後期の所産と推定していたが、念のため平安時代の竪穴住居跡より古いことを重複関係から層位的に確認した。レーダー探査では遺跡の中を南北に弓なりに走るのが確認された。	
	墓跡	弥生時代	再葬墓7基、土坑4基、溝跡1条	弥生土器（壺、広口壺、蓋）				
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡4軒 掘立柱建物跡1棟 土坑1基	土師器（坏、高台付坏、甕、小型甕）、須恵器（大甕、壺）、灰種陶器（瓶）、炭化種実（モモ）				
	集落跡・墓跡	中近世	掘立柱建物跡3棟 溝跡2条	銅製品（不明）				
	不明	不明	土坑30基					
泉坂下遺跡 （第2部 調査の総括）	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡5軒 土坑4基（袋状土坑含む）	縄文土器（深鉢、浅鉢、手燗形土器）、土製品（土偶、列形土製品）、石器・石製品（石槌類、石鏃、石錐、磨石、磨製石斧、独鈷石、玉類）、骨角製品（髪針）、巨大サメ歯化石			弥生時代中期前葉の再葬墓群。東西2群、計30基を確認。うち1基の墓壇から人面付壺形土器が定形で出土。人面付土器の最大の例で、立体的な表現が特徴的な優品。出土状況が明確で資料的価値大。再葬墓以前は縄文時代晩期の集落が展開していた。遺物は呪術的なものが多い。平安時代には集落が広い範囲に展開し、中近世にも集落と墓の跡が確認できる。	
	墓跡	弥生時代	再葬墓30基、土坑16基、溝跡1条	弥生土器（人面付壺形土器、壺、甕）、石製品（玉類）				
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡21軒 掘立柱建物跡1棟 土坑5基	土師器（坏、耳皿、墨書・刻書土器）、須恵器、灰種陶器（椀、瓶、小瓶）、土製品（管状土錐）、石製品（支脚）				
	集落跡・墓跡	中近世	掘立柱建物跡4棟、土坑15基（粘土貼土坑含む）、溝跡6条、井戸跡1基	陶器（丸皿、香炉）、青白磁（碗）、瓦質土器（内耳鍋、火鉢）、石製品（石臼）、銅製品（古銭、煙管、不明）				
	不明	不明	土坑110基、溝跡4条、性格不明遺構4基	泥面子、鉄滓				
要約	平成24年度から4次にわたる確認調査をしてきたが、今次調査で終了した。第1部では第4次確認調査の成果を報告し、第2部では平成18年の調査と4次にわたる確認調査の成果を総括した。良好な保存状態という好条件のもと丁寧な調査によって、縄文時代晩期の集落跡に形成された弥生時代中期前葉の再葬墓群を確認した。稀少な人面付土器を含め、再葬墓の様相を明らかにしたことは極めて意義深い。							

仕様

【紙質】 本書は長期保存を考慮し、すべて中性紙を使用している。

表紙	レザック66白	215kg
見返し	上質紙	70.5kg
巻頭写真	マットコート	90kg
中扉・ごあいさつ・例言・目次・本文・付図	書籍用紙クリーム	70kg
写真図版・抄録・奥付	マットコート	90kg

【印刷】

写真図版以外はオフセット印刷（黒）

写真図版はダブルトーン印刷（スマ+セビア）スクリーン線数200線

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第26集

泉坂下遺跡 V

一人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群—

保存整備事業に伴う第4次確認調査報告及び総括報告

発行日 平成28(2016)年12月1日

著者 後藤 俊一、中林 香澄、萩野谷 悟

編集・発行 常陸大宮市教育委員会

所在地 茨城県常陸大宮市中富町3135番地の6

電話番号 0295-52-1111

印刷 山三印刷株式会社